

---

# 環境省の取組みについて

---

# 「気候変動×防災」について

## 概要

- 近年、平成30年7月豪雨や令和元年東日本台風など激甚な気象災害が頻発している。
- 気候変動の影響が現実となり、想定を超える災害が各地で頻繁に生じる「気候危機」と言うべき時代を迎えたことを認識。
- これまでよりも更に一段、国民の危機意識を高め、気候変動対策の方向性を国民の皆様にお伝えするため、令和2年2月より内閣府（防災担当）と環境省が連携し、有識者を交え、気候変動リスクを踏まえた抜本的な防災・減災対策の在り方の検討を開始。
- 計3回の意見交換会を開催し、各回テーマに応じて有識者から取組内容を発表いただき、議論。
- これまでの議論を踏まえ、今後の気候変動と防災の方向を示す、両大臣の共同メッセージを発表（令和2年6月30日）。

## 主催者

○武田良太 内閣府特命担当大臣（防災）

○小泉進次郎 環境大臣

## 開催経緯

【第1回】令和2年2月21日（金）  
（テーマ）

- ・水(みず)災害の対策
- ・災害に強いまちづくり

【第2回】令和2年3月24日（火）  
（テーマ）

- ・国際的な防災協力
- ・気候変動の影響
- ・防災分野におけるイノベーション

【第3回】令和2年6月3日（水）※WEBを用いて開催  
（テーマ）

- ・グリーンインフラ及び生態系を活用した防災・減災
- ・自助・共助、防災教育
- ・気候変動×防災における自治体の役割



左：第2回意見交換会  
右：第3回意見交換会  
（WEB開催）

# 気候危機時代の「気候変動×防災」戦略（共同メッセージ）概要

令和2年6月30日

## 【自然要因】

- ・気候変動により気象災害が激甚化・頻発化しており、今後も大雨や洪水の発生頻度の増加が予測される
- ・これまでの想定を超える気象災害が各地で頻繁に生じる時代を迎えた

## 【社会要因】

- ・人口減少と少子高齢化による避難行動要支援者増加と支援世代減少
- ・都市への人口集中による災害リスクの高まり
- ・感染症と自然災害が同時に発生する複合リスク

- ・気候変動リスクを踏まえた抜本的な防災・減災対策が必要
- ・SDGsの達成も視野に入れながら、気候変動対策と防災・減災対策を効果的に連携させて取り組む戦略を示す

## 気候変動×防災の主流化

- ・気候変動と防災は、あらゆる分野で取り組むべき横断的な課題である。
- ・気候変動のリスクを可能な限り小さくするため、温室効果ガスを削減する緩和策にも取り組む。
- ・各分野の政策において「気候変動×防災」を組み込み、政策の主流にしていくことを追求する。

課題	方向性	今後の取組例
脱炭素で防災力の高い社会の構築に向けた包括的な対策の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・あらゆる主体が、各分野で、様々な手法により、気候変動対策と防災・減災対策を包括的に実施</li><li>・「災害をいなし、すぐに興す」社会の構築</li><li>・土地利用のコントロールを含めた弾力的な対応により気候変動への適応を進める「適応復興」の発想を持って対応</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・東京等に過度に集積する人口、産業等の地方分散の推進</li><li>・気候変動を踏まえた基準や計画に基づくインフラ施設の整備</li><li>・災害危険エリアになるべく住まわせない土地利用、災害リスクに適応した暮らし</li><li>・古来の知恵に学び、自然が持つ多様な機能を活用して災害リスクの低減等を図る「グリーンインフラ」や「生態系を活用した防災・減災」の本格的な実行</li><li>・デジタル時代の社会変革（テレワーク等）の有効活用</li><li>・避難所等での感染症や熱中症のリスクへの対応</li><li>・再生可能エネルギーの導入加速化など脱炭素社会への移行</li></ul>
個人、企業、地域の意識改革・行動変容と緊急時の備え、連携の促進	<ul style="list-style-type: none"><li>・「自らの命は自らが守る」自助・「皆と共に助かる」共助の意識の促進、適切な防災行動、あらゆる主体が連携・協力する災害対応の促進</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・避難行動を促すための意識改革、行動変容のための取組</li><li>・気象災害の激甚化も念頭においた、地区防災計画、避難行動要支援者の個別計画、企業の事業継続計画等の策定推進</li><li>・地域レベルで多世代が気候変動と防災を学び、災害に備える環境づくり</li><li>・治水に係る連携、地域の企業から住民への避難場所の提供、災害廃棄物の収集・運搬をはじめとする被災者支援活動における官民を超えた多くの関係者の連携</li></ul>
国際協力、海外展開の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・パリ協定、仙台防災枠組及びSDGsを「『気候変動×防災』の三位一体」として同時達成</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・防災に関するわが国の技術やノウハウを用いた各国の防災力向上への貢献</li><li>・アジア防災センターやアジア太平洋気候変動適応情報プラットフォームを通じた国際的な適応の取組の強化、プラットフォーム間の連携の推進</li></ul>

# 自然生態系を基盤とする防災減災推進費の概要

## 事業の目的

- ・ 令和元年東日本台風災害等において、「自然生態系の機能」が防災・減災に貢献した事例調査とその要因分析。
- ・ かつての氾濫原や湿地等の再生による流域全体での遊水機能等の強化に向けた生態系機能ポテンシャルマップの作成。

① 令和元年東日本台風災害を受けた場所を中心に地域を選定。

② 生態系機能が流域全体での防災・減災に貢献した事例調査



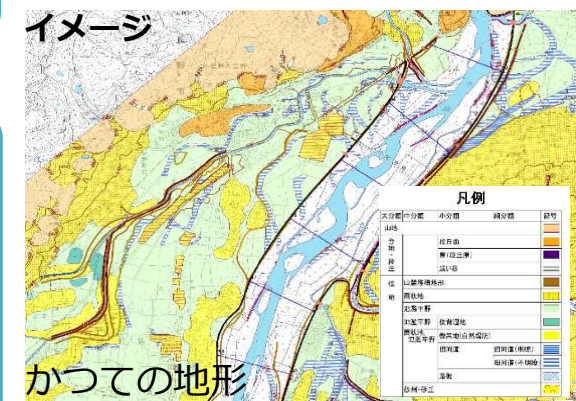
③ 各種情報の重ね合わせ  
・ 地形図・地質図  
・ 既存のハザードマップ  
・ 古地図（旧湿地・氾濫原等）  
・ 生物多様性情報

④ 旧河川・旧湿地・旧氾濫原など  
・ 防災効果の発揮が期待される場所、希少動植物の生息適地などを抽出

⑤ 生物多様性地域戦略などの保全計画や、地域づくり・国土強靱化地域計画・流域防災等の計画・構想へのインプット・提言（関係省庁と連携）。

⑥ 将来的に、自然と調和し災害に強い地域づくり・街づくりに貢献。

【令和2年度予算額 80百万円】



生物多様性情報  
・ ハザード情報  
を重ね合わせ

